

東日本大震災被災地（岩手県大槌町）支援派遣報告

愛知県保健活動チーム第6班として、地震発生約1か月後の4月9日に被災地に入りました。約1000キロ離れた被災地は、道路こそ車の移動が可能なものの、メディアでは何度も目にしてきた映像そのまま、被害の大きさに胸が痛みました。



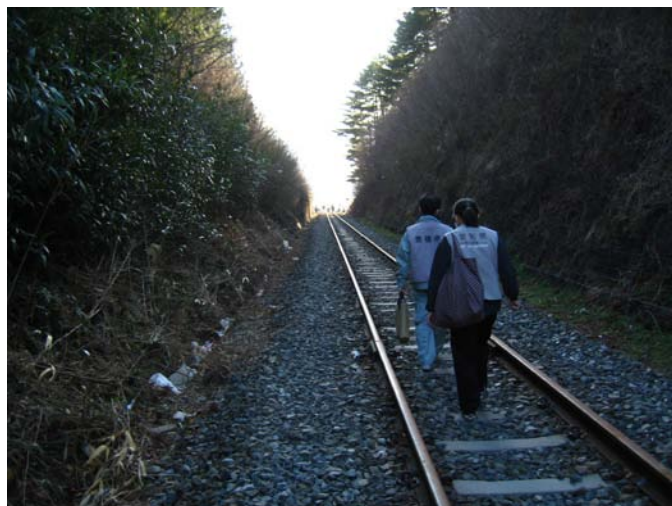
私たちは高校の避難所で寝起きをし、健康相談や医療・こころの相談へのコーディネートなどチーム6名で保健活動に従事してきました。ライフラインは概ね改善しているものの、まだ一部には生活状況が整っていない状態で、食事も1日3回提供されていますが、十分な量や種類はないようでした。

← 避難所の様子（大槌高校体育館）

それでも、避難所の校長始め先生方や生徒、被災者の皆さんが協力し頑張っている姿があり、日々の清掃活動や食事の準備、支援物資の管理など、各々がリーダーシップをとっての避難所運営で、一つのコミュニティーができていました。



現地の方とのお話は、被災された日の過酷な状況をただただ聞き、胸が詰まる思いもしましたが、親しくなるにつれ、被災前のお国自慢になり、「大槌のわかめやウニ、あんたたちにも食わしてやりて一な」「復興したらまたきてや」と最後にはがっちり握手、復興を約束しました。



避難所の巡回ではこんな移動も・・・

避難所の子どもたちと作った応援メッセージ



メンバー全員が力をもらいながらの約6日間の活動も、「私たちのこの現状をしっかりと伝えてください」という言葉を刻み、今後もあいちからできることで支援していきたいと思っています。

がんばれ大槌町！ がんばれ東北！！

がんばれ東北！！



文責：戸田（保健師）